

# 全国ネットワーク構想

2016/11/9

津田直則

1

## 世界に広がる新たな潮流

- 現代は資本主義という経済体制の時代
- しかし世界には資本主義とは異なる社会が拡大しつつある
- 「社会的経済」という世界
- 社会的経済の評価は人によって異なる
  - 資本主義の一部として資本主義と共に発展すると考える人
  - 資本主義は崩壊し、社会的経済の経済体制にとって代わると考える人
- 今後の世界の動き
  - 資本主義の崩壊は免れない
  - 社会的経済は新たな文明の始まりでもある
  - 新たな社会的経済の経済体制が生まれていく
    - 民主主義、参加、公正、連帯・協力などの価値が基本となる
    - 人間と働くものを大切にする市民社会になる
    - 株式会社はなくなる
    - 競争と連帯が逆転する
    - 正義と自由が共に実現する

2

# 世界の潮流から孤立しつつある日本

- 日本の非営利組織は欧州と異なり存在感がない
  - 世界の潮流に日本は気づいていない
  - 非営利組織は共通の理念・価値を持つことに気が付いていない
  - そのためほとんどがバラバラであり相互につながっていない
  - 競争社会で孤立して闘っているために衰退さえしつつある
- 非営利組織への政府の姿勢が欧州とは異なる
  - 日本政府には欧州(国連、EU、各国)と異なり市民社会を育てる姿勢がない
  - むしろ市民社会が権力を持つことを日本政府は望まない
  - 政府の隠れた方針は、非営利組織を分断して統治すること
- 流れを変えるための課題
  - 共通の価値に気づき、相互につながり、協力・連帯すること
  - 多くの非営利組織がつながると日本を変えることが可能になる

3

## 世界の潮流にいかにして加わるか？

- 新たな社会の形成は「地域ネットワーク」から
  - 市民の力で地域の課題を解決していくことから始める
  - 市民が横につながり、ネットワークを形成し、協力し合うことが基本
  - 地域ネットワークを重視する理由＝新たな社会は市民を基本においた社会
  - 「社会的経済」の理解がない地域では必要に迫られるまで無視してもよい
- 「広域ネットワーク」の形成が次の課題
  - 市町村や府県を超える広域ネットワーク形成が次の段階
  - 非営利組織が共通に持つ「理念・価値観」の共有がこの段階の最大の課題
  - 日本にはソウル宣言の会の他にも広域ネットワークが生れている
  - 広域ネットワークまたはそれに近いのは東海三県、広島、新潟に生れている
- 「全国ネットワーク」は広域ネットワークのネットワーク
  - 広域ネットワークを横につないで全国ネットワークを形成する
  - 地域、広域、全国のつながりは縦ではなく横のネットワークにする
  - 非営利組織全体がネットワークを形成することで社会は大きく変わる

4



# 市民と始める地域ネットワーク

- 「和泉市の自然、歴史、文化を創造・保全するネットワーク」
  - ゼロからのネットワークづくりから出発(市民の政策形成能力向上をめざす)
  - 労協センター事業団を招き、NPO、市民団体、市民、の集まりMLで情報共有
- 泉北ニュータウン学会の再生
  - 堺市南区で創設後10年が経過し、求心力が失われゼロ近くまで衰退した
  - 地域課題を市民・団体が協力し解決する方法で再生をめざす
  - 和泉市ネットワークを参考に情報共有のMLを作成中
- 山形県置賜地方
  - 3市5町の広域でもある
  - 農家、行政、学校、大学、市民団体など地域ぐるみ
  - 地産地消に基づく循環型経済形成をめざす特徴がある
- 新潟の地域ネットワークは広域ネットワークの要素がそろっている
  - 10月8日の講演とシンポジウムにより協同ネットが動き始めた
  - 全国ネットワーク形成をめざし今後運動していく流れが生まれた

5

## 「和泉市の自然、歴史、文化を創造・保全するネットワーク」

- 経緯
  - 2016年6月創設総会
  - 個人参加で、どこで、誰が、何をしているかを情報共有するメーリングリストを開設
- ネットワークの活動のコア領域
  - 千年の歴史をもつため池の保存運動と公園化運動
  - 国蝶オオムラサキを卵から育て2千匹放つ祭を実施したNPO拠点の保存運動
  - 放置森林の間伐事業を通じて実現をめざす労協による木の駅プロジェクト
  - 弘法大師ゆかりの弘法寺での古代(大賀)ハスを育てる蓮池掘り
  - 側川奥のきよずの滝の活性化と1300年の修験道の道をつなぐ地域再生運動
  - 市民がつくる自然・歴史をめぐる名所づくり
  - 和泉市民によるFM放送局創設
- 和泉市のネットワークの特徴
  - 地域ネットワークを形成し協力社会をめざすゼロからの運動
  - 弘法寺を市民活動の拠点にし、自然・歴史・文化を構想の中心におく運動

6



# 広域ネットワーク

- ソウル宣言の会・日本

- 2013年ソウルで開催されたGSEFのソウル宣言に賛同し創設された連帯組織  
若森資朗が代表

- ソウル宣言の会・東北

- 2015年5月23日労協や日本協同組合学会が中心になり仙台で集会を開催

あいコープみやぎ、公益財団法人共生地域創造財団、仙台・羅須地人協会、一般社団法人地域再生コミュニティビジネス推進協会、社会福祉法人みんなの輪、NPO・ワーカーズコープ東北事業本部、宮城県生活協同組合連合会など

- ソウル宣言の会・関西

- ソウル宣言の会関西報告集会2015年2月28日での参加団体は

全日建関西地区生コン支部、NPO・共生型経済推進フォーラム、NPO・釜ヶ崎支援機構、エル・チャレンジ、社団法人協同総合研究所、NPO・共同連、生活協同組合エスコープ大阪、近畿生コン協同組合連合会

- 2016年6月大阪高齢者生協総代会で広域ネットワークへ参加表明

- 鹿児島県「鹿児島県協同組合協議会」(KJC)

- 農協中央会、生協連、漁連、森林組合連合会による異種組合間協同(全国初)
- 生産者・消費者交流会、役職員交流、祭、事業提携(1981)、

- 茨城県「協同組合ネットいばらき」

- 89年協同組合いばらきネット(農協中央会、信連、共済連、経済連等9組織)
- 国際協同組合年における10団体提携企画(協同組合関係、NHK、茨城新聞等)
- 13年協同組合ネットいばらき設立(中央会・連合会10、単位組合26、その他5)
- シンポジウム、ボランティア講座、収穫祭、平和活動、協同組合間連携推進など

- 広島県協同組合連絡協議会(HJC)とネットワークづくり

- 98年全国協同集会、99~01年地域と協同集会(高齢者福祉、食と農、子育て等)
- 11年協同労働推進ネットワーク設立(JA、生協、労協、労金、労福協、NPO等)
- 13年広島市による協同労働研究会(行政との連携)、3年で7団体立ち上げ、

- 東海三県(愛知、岐阜、三重)における地域と協働活動のネットワーク

- 地域と協同の研究センターが中心となり、現在個人235人、団体15
- 「非営利協同セクターの協同」というキャッチ・フレーズを使っている
- 協同組合陣営のみでなく非営利セクター全体の発展を志向しているのが特徴。



# にいがた協同ネットの拡大



- 16年10月8日(土)講演とシンポジウム
  - 基調講演:津田直則「地域ネットワークからの新たな社会構想」
  - 地域の問題解決をナリワイにする！シンポジウム
  - 実践例とパネルディスカッション
  - 閉会挨拶にいがた協同ネット副代表山田太郎(新潟労福協)
- にいがた協同ネットメンバー拡大
  - 賛同団体:おらってにいがたエネルギー協議会、新潟NPO協会、新潟労働者福祉協議会、新潟ろうきん福祉財団、ささえあいコミュニティ生協、ワーカーズコープセンター事業団・北陸信越事業本部
- 全国ネットワーク形成にむけて
  - 終了後の懇親会にて、ささえあい生協高見優理事長と全国ネット形成をめざす方針を確認

## 全国ネットワークを形成する方法

- 地域ネットワークと広域ネットワークの違いは目標の違い
  - 地域ネットワークは協力しあって課題実現で、NPOだけでも実現可能
  - 地域課題を解決するには、構想、情報共有、拠点、資金、行政の検討が必要
  - 地域ネットワークと広域ネットワークの間には協同組合間協同が入る
- なぜ広域ネットワークは社会的経済のメンバーを揃えるのか
  - 社会的経済は未だ未完成であるが一つの経済体制をめざしている
  - 従って協同組合、共済、NPO、労働金庫、信用組合等が協力しあうことが必要
  - 非営利組織メンバーが多様であるほど社会的経済に近くなる
- 地域ネットワークから広域ネットワークへのジャンプのための課題
  - 自らの非営利組織価値観並びに非営利組織全体の共通価値観の認識
  - 共通の価値観を基礎にした連帯の精神によってネットワークを形成する
  - 「異種非営利組織は協力し合えるか」等のテーマでシンポジウム開催が必要
- 全国ネットワーク形成のヒント
  - 地域・広域のネットワークが完成していなくても全国ネットワークは形成できる
  - 地域、広域にコアができておれば全国ネットワークへの流れは加速する